東北大学 TOHOKU UNIVERSITY

Press Release

令和元年 7 月 1 日

報道機関　各位

東北大学災害科学国際研究所

シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開Ⅲ－日本の災害文化－」を開催します（7 月 21 日）

このたび、東北大学災害科学国際研究所は、シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開Ⅲ　－日本の災害文化－」を下記のとおり開催いたします。ご多忙中と存じますが、本イベントについて広く周知いただくとともに、当日はご取材の上、紙面・番組等でご紹介いただけましたら幸いです。

資料用意の都合上、ご取材にあたっては、事前登録にご協力をお願いいたします（事前登録 URL：http://urx.red/0EVo）。当日参加も可能です。

記

1. 日時：令和元年 7 月 21 日（日）13 時 00 分～17 時 00 分（開場：12 時 30 分）

2. 会場：東北大学災害科学国際研究所　1 階　多目的ホール

3. 主催：東北大学災害科学国際研究所
　　歴史文化資料保全大学間ネットワーク事業東北大学拠点
　共催：人間文化研究機構，神戸大学大学院人文学研究科

4. 趣旨：

東日本大震災が「未曾有」や「想定外」と言われる一方で、地震・津波に関する古文書や石碑、伝承が大きくクローズアップされました。これらは過去の災害を体験した先人達が後世に残した教訓であり、災害大国日本における文化です。

本シンポジウムでは、津波工学の第一人者であり、他分野連携による災害文化の研究にいち早く取り組んできた首藤伸夫・東北大学名誉教授が「災害文化は有用か」と題した基調講演を行います。また、文系・理系の研究者が歴史資料・伝承を基に取り組んでいる研究や、東日本大震災の被災地に残され、かつ現在変容しつつある今日の災害文化についての報告を行います。

5. 次　第:

【開会挨拶】 13:00-13:10

【基調講演】 13:10-14:10

首藤 伸夫 氏（東北大学 名誉教授）

「災害文化は有用か」

－休憩（10 分）－

【研究報告】14:20-15:55 ※各 15 分

蝦名 裕一（東北大学災害科学国際研究所 准教授）

「東北地方太平洋沿岸の災害文化－記録と忘却をめぐって－」

今井 健太郎（海洋開発研究機構 技術研究員）

「現代の稲むらの火―観測と計算の連携による津波予測技術―」

佐藤 翔輔（東北大学災害科学国際研究所 准教授）

「災害文化はあの日までどれぐらい伝わっていたのか

－陸前高田と気仙沼の場合－」

西村 慎太郎（国文科学研究資料館 准教授）

「原子力災害被災地域の歴史継承の実践」

佐藤 賢一（電気通信大学 電気通信大学大学院情報理工学研究科 教授）

「宮城県南三陸町の津波被災資料救出の経緯と地域史への還元」

－休憩（10 分）－

【コメント】15:45-16:05

北原 糸子（立命館大学歴史都市防災研究所 客員研究員）

川島 秀一（東北大学災害科学国際研究所 シニア研究員・元教授）

【パネルディスカッション】16:05-16:50

コーディネーター：今村 文彦（東北大学災害科学国際研究所 所長・教授）

【閉会挨拶】 16:50-17:00

【問い合わせ先】
東北大学災害科学国際研究所
人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野
蝦名 裕一准教授
Mail: ebin@irides.tohoku.ac.jp
TEL: 022-752-2144